

校歌の風景



10

【又三】 県立牧之原高校として開校し、2年後の87年4月に県立福山高校に校名変更。2010年から進学率・就職率100%。科学研究部は2年連続で

全国高校総合文化祭に出場。設置学科は普通科、商業科。全校生徒140人(17年6月末現在)。

校 牧之原地区に立つ県立福山高

県立福山高校

(霧島市)

作詞・山川 伯明
作曲・福島雄次郎

一
 さやかに 黎明
 熱き心と 理想もて
 明日の文化を 拓きゆく勉学
 これぞ われらが立てし旗
 あゝ 福山 福山高校
 希望あれ

二
 さだかなり 北辰
 強き心と 誠心もて
 天のしるべを 仰ぎゆく規律
 これぞ われらが立てし旗
 あゝ 福山 福山高校
 光輝あれ

三
 きららなり 陽光
 寛き心と 志操もて
 堅き絆を 結びゆく貢献
 これぞ われらが立てし旗
 あゝ 福山 福山高校
 繁栄あれ

建学の精神「校訓」が柱

霧島市福山の標高380mの高台に位置する牧之原地区は、島津義久が牧場を造り、多くの馬が放牧されていたことが由来とされる。畜産や畑作が中心で、夏場は冷涼で過ごしやすい気候だ。そんな地に県立福山高校は立つ。

「さやかに 黎明 熱き心と 理想もて 明日の文化を拓きゆく」。軽快な曲調で、のびのびとした雰囲気のある校歌。1番の歌詞は、牧之原の地の清らかで澄んだ大気を、理想に向かって踏み出す新入生の心と重ね合わせている。

「勉学」「規律」「貢献」の校訓を柱に据え、希望に満ちあふれた心、崇高な人の道を歩みゆく生徒の姿、広い世界への巣立ちをそれぞれ歌う。「建学の精神をしっかりと盛り込みたかった」。第5代校長で、作詞を担当した山川伯

明さん(78)は鹿児島市に生まれ、同校は1985(昭和60)年4月、県立牧之原高校として開校。設立準備室設置から、開校式までわずか3カ月余りしかなかった。準備室のメンバーの一人で、当時国語教諭だった山川さんが校歌の作詞を担当。校名変更後の88年2月に校歌が完成した。

作曲したのは鹿児島県内の民謡発掘に尽力した福島雄次郎さん(故人)。山川さんによると、「情熱的な雰囲気を感じた。未永く歌い継いでほしい」との言葉を残している。遠藤武夫校長(56)は「生徒たちが校歌に触れる機会を増やしたい」と、全校朝会で歌唱指導に取り組んでいる。「学校の象徴である校歌を大切にしたい」。作り手の思いはしっかりと引き継がれている。

(山下翔吾)

